

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

がん患者の家族・遺族に対する効果的な精神心理的支援に関するガイドライン作成

研究分担者	久保田 陽介	名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学
	藤森 麻衣子	国立がん研究センター・社会と健康研究センター健康支援研究部
研究協力者	松岡 弘道	国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科
	明智 龍男	名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学
	大武 陽一	伊丹せいふう病院
	瀬藤 乃理子	福島県立医科大学
	倉田 明子	広島大学病院
	浅井 真理子	日本医科大学
	加藤 雅志	国立がん研究センターがん対策情報センターがん医療支援部
	竹内 恵美	国立がん研究センターがん対策情報センターがん医療支援部
	蓮尾 英明	関西医大病院
	宮本 せら紀	東京大学病院
	阪本 亮	近畿大学病院
	大西 秀樹	埼玉医科大学国際医療センター
	四宮 敏章	奈良県立医科大学附属病院
	岡村 優子	国立がん研究センター・社会と健康研究センター健康支援研究部
	篠崎 久美子	国立がん研究センター・社会と健康研究センター健康支援研究部
	坂口 幸弘	関西学院大学人間福祉学部人間科学科

研究要旨

がん患者の家族・遺族に頻度の高い、抑うつ、複雑性悲嘆に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインを作成することを目的とする。そのため、Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにのっとり、昨年度までに設定された重要臨床疑問の系統的レビューを継続し、系統的レビューの結果に基づいて提案された推奨、推奨の強さ、エビデンスの確実性について、デルファイ法によって外部評価者の意見を集約して、推奨等を決定した。さらに系統的レビューの説明、推奨に関する解説、文献リストを作成し、ガイドラインとして、Website 上で公表した。本ガイドラインにより、がん患者の家族・遺族の生活の質の向上が期待される。また、より一層症状緩和を推進するうえでさらなる研究が実施され、エビデンスが蓄積されることが期待される。

A. 研究目的

がん患者の家族・遺族に頻度の高い、抑うつ、複雑性悲嘆に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインを作成することを目的とする。

B. 研究方法

ガイドライン作成グループは、責任者松岡弘道（委員長）の下、久保田陽介、藤森麻衣子に加え、明智龍男、大武陽一、瀬藤乃理子を副委員長として組織し、精神科医、心療内科医、心理士、看護師、ビリーブメントの研究者等多職種で構成した。その他、倉田明子、浅井真理子、加藤雅志、竹内恵美、蓮尾英明、宮本せら紀、阪本亮、大西秀樹、四宮敏章、岡村優子、篠崎久美子、坂口幸弘も委員として参画した。

Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにの

っとり、臨床疑問、スコープ、重要臨床疑問を設定し、外部評価を受けたうえで、文献検索を行い、系統的レビューを行う。系統的レビューの結果に基づき推奨、推奨の強さ、エビデンスの確実性を提案する。これらについて、再度、外部評価を受け、デルファイ法による妥当性の検証の上、決定する。系統的レビューの説明、推奨に関する解説、文献リストを作成し、ガイドラインとする。

C. 研究結果

昨年度までに設定された重要臨床疑問の系統的レビューを継続し、系統的レビューの結果に基づいて提案された推奨、推奨の強さ、エビデンスの確実性について、デルファイ法によって外部評価者の意見を集約して、推奨等を決定した。さらに系統的レビューの説明、推奨に関する解説、文献リスト

を作成し、ガイドラインとして、Website上で公表した（<https://grief-care.info/wpsystem/wp-content/uploads/2022/03/guidelines-2022-03-2.pdf>）。

概要は以下のとおりである。

・CQ1：がん等の身体疾患によって重要他者を失った（病因死）18歳以上の成人遺族が経験する重篤な精神心理的苦痛に対して、非薬物療法を行うことは推奨されるか？

【推奨文案】抑うつや悲嘆の軽減を目的に、非薬物療法を行うことを提案する。

【推奨の強さ】2（弱い） 【エビデンスの確実性（強さ）】C（低）

・CQ2：がん等の身体疾患によって重要他者を失った（病因死）18歳以上の成人遺族が経験する精神心理的苦痛に対して、向精神薬を投与することは推奨されるか？

CA2a うつ病に対して、向精神薬を投与することは推奨されるか？

【推奨文案】うつ病による抑うつ症状の軽減を目的とした抗うつ薬の投与を提案する。

【推奨の強さ】2（弱い） 【エビデンスの確実性（強さ）】C（低）

CQ2b 複雑性悲嘆に対して、向精神薬を投与することは推奨されるか？

【推奨文案】複雑性悲嘆の軽減を目的とした抗うつ薬等の向精神薬の投与は推奨しないことを提案する。

【推奨の強さ】2（弱い） 【エビデンスの確実性（強さ）】C（低）

D. 考察

本研究では、がん患者の家族・遺族に頻度の高い、抑うつ、複雑性悲嘆に対する精神心理的な支援法に関する診療ガイドラインを作成することを目的として、Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにのっとり、現在システマティックレビューを実施し、重要臨床疑問を3つ、がん等の身体疾患によって重要他者を失った成人遺族が経験する精神心理的苦痛に対して非薬物療法を行うこと、うつ病に対して向精神薬を投与すること、複雑性悲嘆に対して向精神薬を投与することが弱く推奨されることを示した。

システマティックレビューの結果から、本ガイ

ドラインの対象者や介入内容が多岐に渡り、一つ一つのエビデンスに限界があることが明らかとなった。しかしながら、臨床的重要性から、有識者によるデルファイ法の結果から、いずれの介入においても実施することを提案することに意見が集約した。本ガイドラインにより、がん患者の家族・遺族の生活の質の向上が期待される。一方、今後、より一層症状緩和を推進するうえでさらなる研究が実施され、エビデンスが蓄積されることが期待される。

E. 結論

本ガイドラインにより、がん患者の家族・遺族の生活の質の向上が期待される。また、より一層症状緩和を推進するうえでさらなる研究が実施され、エビデンスが蓄積されることが期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Akechi T, Kubota Y, Ohtake Y, Setou N, Fujimori M, Takeuchi E, Kurata A, Okamura M, Hasuo H, Sakamoto R, Miyamoto S, Asai M, Shinozaki K, Onishi H, Shinomiya T, Okuyama T, Sakaguchi Y, Matsuoka H.: Clinical practice guidelines for the care of psychologically distressed bereaved families who have lost members to physical illness including cancer. *Jpn J Clin Oncol*. 2022 Mar 6;hyac025. doi: 10.1093/jjco/hyac025. Online ahead of print. PMID: 35253040

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし